

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	2008年 3月 22日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム はまゆう (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 <u>石松 成子</u>
	氏名 <u>新納 裕子</u>
事業所側対応者	職名 <u>取締役社長・管理者</u>
	氏名 <u>中蘭 裕子・又間 孝子</u> ヒアリングを行った職員数 4名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県第4670600214号		
法人名	有限会社 精 祥		
事業所名	グループホーム はまゆう		
所在地	鹿児島県阿久根市脇本6778番地39 (電 話) 0996-75-1122		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年3月22日	評価確定日	平成20年3月30日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13人, 非常勤 4人, 常勤換算	15人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83.3歳	最低	71歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	脇本病院 ・ よしもと歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海に面し、畑に囲まれた自然豊かな環境の中にあり、運営者や管理者・職員の優しさや思いやりの気持ちが伝わってくるホームである。地元の新鮮な野菜や魚が食卓に上がり、季節の花に囲まれ、入居者も落ち着いて生活している。職員のチームワークもよく、安心して、「安全に心地よく暮らせること・開かれたグループホーム・地域への貢献」を目指して毎日のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点の、玄関周り・手すり等安全面の配慮は改善できている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価を実施するに当たり、管理者・職員で話し合い前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表や地域住民代表・市担当者に参加を呼びかけ、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合っている。地域との付き合いなどを貴重な情報や意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	説明文書に苦情・相談窓口を明記し入居時に説明している。面会時や年1回の家族会・ホームの行事に家族の参加を呼びかけ、意見や要望を聴く機会を設けている。運営推進会議にも参加を呼びかけ、意見や要望を聴き運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧版や市の広報など地域の一員として参加している。散歩時の挨拶や、地区公民館での行事や中学校の運動会の見学など、地域の人との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 石松 成子 / 新納 祐子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に地域密着型サービスの役割を考えながら、馴染みの暮らしや地域とのふれあいを目指して、職員全員で話し合っって作り上げた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作った理念であり、毎朝の朝礼時に理念を唱和し、日々のサービスにおいて理念を念頭に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧版や市の広報の回覧など地域の一員として参加している。散歩のときの挨拶や、地区公民館の行事や中学校の運動会に参加するなど地域の人との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、管理者・職員で話し合い、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や地域住民代表・市担当者に参加を呼びかけ、事業者の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合っている。地域との付き合いなどで貴重な情報や意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営やサービスの課題について、市担当者と相談や協議しながら解決を図っており、連携や関係づくりにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節ごとにホーム便りを発行しホームの行事や入居者の様子をわかりやすく報告している。金銭管理は請求書送付時に収支報告書を同封し、健康状態は随時電話にて連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に苦情・相談窓口を明記し入居時に説明している。家族会を年1回開催し、意見や要望を聴く機会を設けている。運営推進会議やホーム主催の行事等にも家族の参加を呼びかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者が馴染みの職員による支援が必要なことを認識し、ユニット間の異動や交流など配慮して行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会の確保や、勉強会など委員会を設置し、計画的に実施している。研修報告を行い、全職員で研修の内容を共有出来るようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加している。地域の同業者とも交流があり、相談したりしてサービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば自宅や病院を訪問し、面談や情報収集を行い、本人・家族にもホームの見学を勧めている。家族・職員・関係者と相談しながら、ホームに馴染むまで家族の面会や外出など、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者や職員は、理念に添って、入居者が尊厳を持ち、自立した和やかな生活が出来るよう、場面づくりや声かけをしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から、本人の視点に立って、丁寧に思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスの前に、家族や主治医の意見を聞き、担当職員などの意見を参考に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に沿ってチェック表に記録し、定期的にモニタリングして計画の見直しを行っている。状態変化や家族の希望があれば随時見直ししている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助など家族と相談し柔軟に対応している。お盆や正月の外泊など積極的に働いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。車酔いがあり通院が出来ない入居者は、往診など工夫している。家族との受診時の連絡も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、状態を考慮しながら、家族や主治医・職員と話し合っ方針を共有し、納得して取り組んでいる。医療機関等の協力体制があり、家族が希望し、ホームでできる最大の終末期のケアを支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に尊厳・安心・自立を掲げ、管理者・職員は認知症の理解や入居者への思いやりの気持ちがある。一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保の徹底が実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事時間などその人のペースに合わせている。リハビリや散歩も無理強いはしないようにしている。希望する入居者には、コーヒー・紅茶・ココアを提供し、晩酌の希望にも応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑や職員の作った野菜、地元の新鮮な魚を利用して下ごしらえや味付け・片付けなど共に行っている。入居者の好みの献立を、一緒に楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決まっているが、ユニットで曜日を変えており、一人ひとりの希望やタイミングいつでも入浴でき、安心して入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事・洗濯物・畑の手入れ・庭掃除・買い物・散歩等々張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海岸やホームの庭・畑などに散歩をするなどの外出の支援をしている。海岸や自宅などドライブを兼ね出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報装置やIH調理器・避難通路・スロープ・など防災体制が整っている。消防訓練は年2回実施し、避難訓練は毎月行っている。消防団にも協力を依頼し、協力体制ができている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に食事量や水分量を記録している。グループの栄養士に献立のアドバイスをもらっている。飲み物もしょうが湯・レモンティーなど好みのものを提供して、水分確保の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口に季節の花が生けられ、季節感を採り入れている。ホールと居室の間に中庭があり、明るく、風通しもよい。トイレも広く、手すり等もADLの低下が見られる入居者に配慮されるなど、居心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の作品や好きな植物、誕生日の写真等飾りその人らしい居室を工夫している。使い慣れた道具の持ち込みも自由に勧めて、ダンス・鏡台・椅子など持ち込み居心地良く過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。